

# 幼児の藝術教育

霜 田 靜 志

## 幼児の心理

「三つ子の魂百まで」は昔からの諺である。西洋の學者は人の性格は大抵四五歳位までに形作られると言つて居る。いづれも幼児の教育がどんなに大切であるかを示す言葉である。

最近に某氏は人間の教育に於て一番大事なのは、生涯記憶を稱せられる、人間としての最初の記憶の残る四五歳頃である、さういふ風に言つて居られた。併しこれはつまり意識の上での教育だけを考へるからの事であつて、若しも無意識の教育が更に大切である事を思ふならば、それ以前の記憶にも何も残らぬ時代の教育の一層大切な事が知られるのである。

フロイドによつて精神分析學なるものが開かれて以來、人間の精神生活は、意識だけを問題にすべきでなくて、意識の下に横はる無意識が可成に重大なる役割をつとめる事が明かにせられた。此の立場から考へると、嬰兒幼児時代の生活は殆どその大部分が無意識の中にある。嬰兒幼児は意識して之を斯うする、あれをあつする、さういふ風にするのでなしに、無意識的に、反射的に事を爲す場合が非常に多いのである。此の時期が實は極めて重要な時期である事を、幼児の心理の立場から考へなければならぬのである。

## 幼児教育の主眼點

それ故に幼児教育に於て最も大切なのは、意識の指導でなくて、無意識の指導である。幼児時代に教へられたものなき

は、後年に至つて意識の上からは殆んど總てが消えてしまふ。けれども残るのは、此の時代に作られた習慣であり、性質である。それ故に保育の要點は言ひきかせたり教へたりする事ではなしに、子供の平常の生活の間に、よき習慣を作らせて行くことである。

然るに今日保育の實際について見るに、兎に角此の點に餘り注意を拂はないのではないかと思はれる節が非常に多い。言ひきかせたり教へたりして、「お、聞きわけのよい子だ、よく物が分る、感心だ」こいふ風に賞めて居る者がずいぶん多い。尤も方便にしては之も決して悪い事ではない。斯うした方法の間によき習慣を養成して行くなら、之も決して悪い事ではないのである。唯之を以て、子供がよく分つて呉れた、こ思ひ、その事自體を喜ぶなら大間違ひである。敵は本能寺にあり、こいふ事をいつも考へての指導でなければならぬ。

### 幼児の藝術的表現

大分前置が長くなつたが、前述の意識無意識の見地から幼児の藝術教育も、此處に從來こは違つた立場で、改めて考へ直さなければならぬのである。既に述べたる如く、幼児期に於ける無意識的な生活の間に、人の一生を支配する性格が形作られるものである以上、此の時期の藝術教育が如何に重要なものであるかは言ふまでもない事である。

此の時代に與へられた悪影響が、かなりの後までも人の精神を支配するものである事が明かなる以上、藝術的方面の教養については、特に注意する必要がある。

こころで藝術的方面の教養は、創作の方面と鑑賞の方面との二つに別れるのであるが、先づ其の創作的方面について見る事にしよう。

赤ん坊は少し大きくなるこ、手を口に持つて行かうこする、又物を握らうこする、それは皆、赤ん坊にこつては創作的な喜びである。更に發達して來るこ紙を引きさく、新聞なき與へて置くこ、バリー〜こ夢中になつて引きさくものであ

る。此の時赤ん坊にまつては引きさく事それ自身が立派な創作的行爲である。次には匙なごで食卓をたゞく。或は食卓の茶碗や箸やらを無暗にかき落す。彼は物が落ちて音を發するのが面白くて仕方がないのである。即ちこれは音について創作的興味である。

斯うした赤ん坊の行爲は無暗に抑へてはいけない。それは創作活動の萌芽だからである。斯うした行爲の後、漸く子供も發達し來り繪を描いたり、積木をしたり、或は泥こねをして、お團子を作つたりするやうな、纏つた仕事に進んで行くのである。幼稚園にはいる頃は、もう此の時期に來て居る。即ち此の時は幼児の創作活動が、漸く形を爲すに至つた時期である。

ところで此處に注意すべきは、幼児に於ける是等の藝術的表現が、大人の藝術創作とは、全く意味を異にするものなる事である。大人の藝術は、科學や宗教や道德と對立する意味に於ての、藝術それ自身の獨自の分野を持つて居る。併し乍ら、幼児の藝術は、科學にも宗教にも藝術にも分化せられない、それ以前の生活その儘の表現である。幼児の描いた繪を見れば、其處には、幼児の生活その儘が、何の飾りもなく純真な姿に表出せられて居るのである。其處には大人の考へて居るやうな畫としての仕上げや美的効果を期待すべき何物もない。

### 其の指導方法

それ故に、其の指導に於ては、あくまで幼児の此の心境を重視しなければならぬ。即ち繪だの手技だのをうまく完成させるさいふ結果に重きを置かずに、幼児が如何なる心境にあつてそれを表現しようとしつゝあるか、其の過程に注意し、之をよく指導して行かなければならない。

然るに幼稚園に於ける圖畫や手技の指導は、動もするこ結果にのみ重きを置くやうになり勝である。それは常によく出來上らせたい、よき結果を得たい、こいふ立場からのみ屢々計劃せられる。私が嘗て或る幼稚園を參觀した時、其處の

園長さんは、園児の作った色々な成績を示して呉れた。それ等の作品は、どれもこれも見事な物ばかりであつた。紙やら、布やら、木切れやら、色々な物を集めて、自動車だの、人形だの、立派なものが澤山に作つてあつた。又壁には水彩繪具を用ひて描いた風景畫が幼兒の手で驚くばかり立派に描かれて居た。園長さんは之を自慢げに私に示し、その指導法についても説明して呉れた。

併し私は一向感心しなかつた。それは如何にも、よく出来上つた作品であつた。だが私は、其の中から幼兒自身の姿を見出すことに苦しんだ。其處には指導者の意圖が餘り多く働き過ぎて居て、兒童は單に指導者の意圖によつて動かされて居るに過ぎなかつた。

私は今日までの處では、まださう多くの幼稚園を見て居ない。併し實際に於ては、かなり多くの幼稚園で斯うした指導が行はれて居るのではあるまいか。若しさうだと思すれば、これは餘程考へなければならぬ問題である。それは餘りに結果主義に墮して居るからである。

私が僅ばかり園児を指導した経験によるに、幼兒に於て、最もよき表現の素材は、繪をかくことゝ粘土による製作であつた。つまりこれは、その孰れもが表現の自由があるからであつた。或る子供は始めて粘土を與へた時、たゞ掌でよつて伸ばした丈けのものを幾つも作つた。それは何か、さきいた時「みゝず」を答へた。恐らく偶然に出來た形がみゝずに似た事を見て喜んだものであらう。それ以後此の子供は盛にみゝずを作つた。私はいつまでもみゝずを作らして置いた。するに遂に此の子供もみゝずだけでは満足出來なくなつて、お團子を作るやうになつた。それから又別のものをも作らうとするやうになつた。斯うした自然な發展をこそ助長すべきである。私は考へる。子供自身の自然な發展を待ちきれないで、無理に引き上げて行かうとするが如き態度は謹むべきである。これは繪畫に於ても音樂に於ても同様の事が言はれようと思ふ。

## リトミック

ダルクローズの創始せるリトミックは幼児の教育に於ても大きな役目を爲すことが認められる。それは音楽の基礎となるリズムに對する感覺的訓練の方法として、極めて優れた方法であると思ふ。リトミックでは、指導者の奏する意味ミリズムを子供は敏捷に身體的表現に移さなければならぬ。それ故に、子供は常に緊張を集注して居なければならぬ。此處がリトミックのよい所であると同時に、指導が當を得なければ屢々邪道に陥る原因ともなる。

さる所でリトミックを課せられた幼稚園の子供が甚だしく神經過敏になり、リトミックを非常に苦痛とするやうになつた、こいふ事實があるが、さもあるべき事と思ふ。子供に注意の集注ばかりさせて居るなら、子供は全く神經を疲れさしてしまふばかりである。今度はどんな音か、こんごはどんな拍子か、ミそれはかり注意して居なければならぬやうにやらせられては、子供はやり切れたものではない。

結局これは意識の教育ばかりを考へるからいけないのである。もつミ大事なのは無意識の教育である事は、この場所でも變りはない。意識の上から、あゝ今度は此の音だ、今度は此の拍子だ、こいふ風に身體を動かして行くだけを稽古させるのでは、さうしてもいけない。子供がもつミ樂に愉快に、無意識的に動く事の出来るやうに指導が爲されなければならぬ。意識を無意識にまでの指導が、リトミックに於ては最も大切である。否これは單にリトミックに限らず、他の遊戲に於ても、唱歌に於ても、繪や手技に於ても、同様であつて、藝術的指導に於ける根本的態度である言はなければならぬ。

## 幼兒の鑑賞教育

さきに述べたる如く、幼い時に與へられた影響が後年の生活を支配する大きな力となるものである以上、此の時期に於て良き繪を見せ、よき音樂を聞かせる事に努むべきことは言ふ迄もない。此處に鑑賞の教育の重要性が見られる。

こころで幼児にはどんな繪を見せ、どんな音楽を聴かせたらいいか、次に之を簡単に述べて見よう。

先づ第一に、あくまで藝術的に優れたものから材料をとりたい。之は繪の場合でも、音楽の場合でも同様である。幼児向きにこ特に引きさけて描いた繪なきはさうも感心しない。藝術家が勢一杯の力を發揮して描いたものゝ中から、適當なものを採りたいものである。

第二に幼児に適するもの、さういふ立場から材料を探る必要がある。音楽の方ではリズムカルなものはいつでも子供に喜ばれる。次が劇的なもの、次に歌謠的なものさういふ事になる。さういふ順序で良い作品を選んで行く。ビクターのレコードなきには、幼児に聴かせる材料がましまつて居るやうである。

繪の方では、子供を描いたもの、動物を描いたものなきは最も喜ばれる。それ等の題材のものをよき作品の中から選ぶべきである。古今の名畫の中から、さうした子供に喜ばれる題材を選び、之を子供に見せるやうにする事は最も大切である。少し進んでは物語を現した繪も亦喜ばれる。勿論繪については、子供等にその話をしてやり、それによつて繪に對する興味を起させるやうにする事が最も大切である。

近頃では音楽鑑賞の材料としては蓄音機のレコードが豊富にあるし、繪の方では、原色版等の印刷による立派なものが澤山に出來て居るので、さういふものを成るべく充分に集めて、よき鑑賞指導をしたいものである。

子供繪本にある繪も、すいぶん玉石混淆の状態にあるから、その中から珠玉を選び出し、額にでも入れて置いて、子供に常に見させて置くさういふ事。さういふ事も一つの方法であると思ふ。

鑑賞教育の材料、其の取扱ひ方法等については、もつと具體的に詳しく述べて見たくも思ふが、長くなるので今回は之だけに止め、いづれ再び稿を改めて書かして頂くさうしよう。